

# 平成28年度 「学校評価」のまとめ

## 1 主な評価結果

### (1) 主な指標の変化

- ・「学校が好きだ」という生徒は、86.8% (昨年比+1.8%) になった。
- ・「先生方は、教え方にいろいろ工夫している」という生徒は、98.2% (昨年比+2.5%) になった。
- ・「先生方は、生徒が間違った行動に対して、不正は許さないという厳しい態度で適切に指導してくれる」という生徒が、98.5% (昨年比+1.6%) になった。
- ・「先生方は、目をかけ・手をかけ・声かけ」を心がけ、いじめなどの悩みや相談に親身になってのってくれる」という保護者は、95.6% (昨年比+2.1%) になった。

### (2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

本校では、学校教育目標「心を磨く生徒・真摯に学ぶ生徒・体を鍛える生徒」に向かって生きる力をはぐくむことを目指している。「心を磨く生徒」では「学校では、思いやりなどの心を育ててくれる」と答えた生徒は98.7%、「真摯に学ぶ生徒・体を鍛える生徒」では「学校では、確かな学力やたくましい体力を向上させてくれる」と答えた生徒は97.9%であった。これは、全教育活動で学校教育目標を具現化する取組が行われていると考えられる。また、さらに、家庭学習の取組をまとめた、「花園中まなびゲーションみちびき」を「私の生活記録」に掲載し、授業や家庭学習で取り組んだ。「子どもは、時間を上手に使い、学習を大切にしている」と答えた保護者は67.2%、「家庭では、進んで家庭学習している」と答えた生徒は、83.4%となった。校内研修や補習の充実を図り、80%以上の目標を継続していきたい。

また、立志式などに取り組むことで「自己の生き方について考えることがある」と答えた生徒は、83.7%に、「将来の進路や生き方について考えさせる機会を与え、適切に指導している」と答えた保護者は、91.8%になった。確実に、立志式を中心に据えた進路指導が実を結びつつあると思われる。

さらに、日本一のあいさつに向け取り組んだ結果、生徒の「気持ちのよいあいさつをするように心がけている」が、96.6%であった。気持ちよいあいさつをする自覚が、全校生徒に身についた結果である。

### (3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

本校の学校研究課題「確かな学力と自立する力の育成」に向かって研究を行っている。「学校は、確かな学力やたくましい体力を向上させてくれる」と答えた生徒は97.9%、「先生方は、教え方にいろいろ工夫している」と答えた生徒は98.2%であった。また、日常生活で学級の一員であることを自覚し、人から信頼されるよう心がけて行動している」と答えた生徒は92.3%であった。これは、「確かな学力と自立する力の育成」に向かって、研究主任を中心として全教職員が授業力の向上や思いやりや豊かな心を持つ生徒の育成のため、日々研鑽に努めているからだ考える。

## 2 次年度に向けての課題

教師の授業等の工夫により「先生方の話は、興味深くわかりやすい」と答えた生徒は、93.0%に、「先生方は、教え方にいろいろ工夫している」が98.2%である。今後も、教師が今まで以上にアクティブラーニングを積極的に取り入れるなど魅力ある授業作りに取り組み、ICTの活用などを通し、生徒全員が「わかりやすい」と感じることができる授業を目ざし学力向上に向け取り組んでいく。

「日本一のあいさつ」を目標に取り組み、大きな成果を出している。地域の方々からも、「見ず知らずの中学生が、あいさつしてくれた。」などの話を伺うなど、校外でのあいさつもさらに充実させていきたい。そのために、公民館や自治会との連携を図っていきたい。

「学校が好きだ」と答えた生徒は86.8%だが、「自分のことを大切にしている」と答えた生徒は93.3%となるなど、自尊感情も確実に高まってきている。立志式などの自己を表現する場を多く創造していきたい。また、巡回相談など生徒理解のための様々な取組を行い、生徒一人一人の特性に合わせた工夫をさらに行う必要がある。

開かれた学校づくりのために、学校応援団の組織を再構築し、学校応援団「親父の会」を組織した。また、地域の協力が得られやすいように、代表者会議や自治会での説明等を行い、地域に学校応援団の周知を図った。今後は、年間計画に学校応援団の事業内容を位置づけ、活動が学校、家庭、地域に見えるようにしていくことで、参加者をさらに募っていく。